

## 福島第一原子力発電所廃炉検討委員会セッション

## 「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」活動報告

Periodical Report from Study Committee on Decommissioning of The Fukushima Daiichi NPP

## (4) 「建屋の構造性能検討分科会」からの報告

## — 中間報告・2017年版にむけて —

## (4) Activity of Subcommittee on Structural Performance of Reactor Building

瀧口克己<sup>1</sup><sup>1</sup>建屋構造健全性評価分科会主査，東工大学名誉教授**1. 活動の概要**

本分科会の目的、方針、委員構成、組織的位置づけなど、基本事項を説明し、これまで、約 20 か月の活動実績と、これからの数か月間の当面の活動計画を述べる。

この分科会の活動の方針と密接に関わることであるので、分科会と廃炉検討委員会とのあるべき関係性についても論じる。

**2. 要求される機能と許容する変形**

廃炉過程で建屋に要求される機能の整理は、構造性能を検討するうえでの必須の事項であり、先ず、これをどのように進めていくかを述べる。続いて、許容する変形を論じる。

検討すべき構造性能の最重要なものが耐震性能である。耐震性能を評価するうえでの鍵のひとつが、壁部材のせん断力・せん断変形関係をどう考えるかである。許容するせん断変形に幅をもたせようとする、従前のせん断変形の定義にまで遡って検討しなければならない点が生じてくる。ここで、そのことを説明し、許容するせん断変形の範囲を論じる。

**3. 中間報告・2017年版の概要**

分科会の活動が 2 年になる時期に、分科会としての意見を纏めておくことはそれなりの意義があると考え、現在、中間報告・2017年版を纏め始めたところである。ここまで述べてきたことを踏まえつつ、中間報告・2017年版の内容をどうしようとしているのかを説明する。

範囲は限られているけれども、明らかにした事項を記述することになる。対象期間は燃料プールにある燃料取り出しまでとする。代表建屋として 3 号機をとりあげる。3 号機の耐震安全性をどのように評価するかを論じる。

中間報告・2017年版では、今後の課題を整理して、分科会でどのように取り扱うのかという方針も示すことになるが、そのことについても言及したい。

---

Katsuki Takiguchi<sup>1</sup><sup>1</sup>Professor Emeritus at Tokyo Institute of Technology